

令和元年度

自己点検・自己評価報告書 目次

表紙

令和元年度自己点検・自己評価について

- 自己評価項目 (A) 教育理念・目的・人材育成像
(B) 学校運営
(C) 教育活動
(D) 生徒指導等
(E) 学修成果
(F) 生徒・学生支援
(G) 教育環境
(H) 生徒・学生募集
(I) 財務
(J) 法令等の遵守
(K) 社会貢献・地域貢献
(L) 国際交流

学校法人 中部学園
中部楽器技術専門学校

令和元年度自己点検・自己評価について

本校では、平成25年度に文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に自己評価に取り組み、教職員が本校の理念、目標に照らして自らの教育活動を評価し、改善することによって、職業教育の質の補償・向上に組織的に取り組みました。また、平成27年3月に文部科学省における職業実践専門課程の認定を受け、平成26年度に自己点検・自己評価を行い、更なる企業等との連携を深め職業教育の充実を図るとともに、令和元年度も実施致しました。

1 対象期間

平成31年4月1日～令和元年3月31日

2 実施方法

学内に「自己点検・自己評価委員会」を設置し、委員会を中心に実施しております。

「自己点検・自己評価委員会」

委員長	角堀雅信	校長
委員	早川昌幸	進路指導部長
	中村 大	教務部長
	杉浦 彰	総務部主任
	服部幸弘	財務担当

3 自己評価項目

自己評価は、以下の12項目について実施しています。

- (A) 教育理念・目的・人材育成
- (B) 学校運営
- (C) 教育活動
- (D) 生徒指導等
- (E) 学修成果
- (F) 生徒・学生支援
- (G) 教育環境
- (H) 生徒・学生募集
- (I) 財務
- (J) 法令等の遵守
- (K) 社会貢献・地域貢献
- (L) 国際交流

4 評価項目に対する評価

評価は、1～5の点数で記載しております。

5：適切 4：やや適切 3：普通 2：やや不適切 1：不適切

令和元年度

自己点検 自己評価報告書

令和2年10月

学校法人 中部学園

中部楽器技術専門学校

A、教育理念・目的・人材育成像		評価点
A-1	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造等が生徒・関係業界、保護者等に周知されているか	4
A-2	各学科の教育目標・人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

A-1	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造等が生徒・関係業界保護者等に周知されているか	評価点
現状認知・評価等とその根拠	学校の教育理念、目的、育成人材像、特色、将来構造については、学生保護者にはオープンキャンパス等の講習会、入学式及び保護者通信等で周知されている。業界関係者等には、創立40周年記念パーティーの挨拶において周知させていただいた。在学生においても、創立40周年記念式典において話をした。	4
今後の課題とその解決方法	学生においては、入学学生は入学式等で周知しているが在校生においても、新年度合宿の場や日頃からのホームルームなどにおいて更なる周知が必要である。	
参考資料	学生パンフレット、学生募集要項、保護者通信、創立40周年記念パーティー・記念式典資料	
A-2	各学科の教育目標・人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	評価点
現状認知・評価等とその根拠	業界のニーズを発掘する場所として「教育課程編成委員会」「学校関係者評価委員会」における委員の方々からの意見を取り入れ、本校の「カリキュラム編成委員会」において、業界のニーズに沿った教育課程の編成を行っている。	4
今後の課題とその解決方法	業界のニーズの変化に対応するためには、ニーズに沿った教育課程の編成を迅速にすることが重要である。その為には、業界、他校の情報収集を図るような取組みが必要である。	
参考資料	シラバス、年間カリキュラム表	

B、学校運営		評価点
B-1	目的に沿った運営方針、経営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか	4
B-2	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

B-1	目的に沿った運営方針、経営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	目的に沿った運営方針、経営方針の沿った事業計画は策定されている。事業計画においては、年度初めの全職員会議の場において教職員全員に周知している。事業計画に基づいて各部署、各個人において目標を立てている。目標については、個人面談等で進捗状況を確認している。	4
今後の課題とその 解決方法	事業計画に沿った目標意識は向上しつつある。今後は更なる理解と目標遂行に向けてのスキルアップが必要である。	
参考資料	事業計画書、目標設定	
B-2	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	情報システム化等による業務の効率化が図られているかについては、学籍、成績、欠席の管理システム、入学希望者管理システム、就職先企業管理システムがあり、それぞれのネットワークは情報セキュリティの理由でアクセス権を区分している。セキュリティの強化も行われた。また、Docu Worksなども導入し、Microsoft Teamsを活用することで仕事効率を上げることができた。	4
今後の課題とその 解決方法	セキュリティについては、更に強化していかなければならないと考える。	
参考資料		

C、教育活動		評価点
C-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
C-2	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

C-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	教育課程編成委員会を開催し委員からの意見を参考に、毎年、教育課程の編成を行っている。各学科においては、実習カリキュラムに重点をおいた編成となりつつある。業界のニーズに沿った人材育成のカリキュラムも導入している。	4
今後の課題とその 解決方法	「教育課程編成委員会」「カリキュラム編成委員会」等を中心にした高度の教育課程の編成が望まれる。	
参考資料	教育課程編成委員会議事録	
C-2	職員の能力開発のための研修等が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	教員研修においては、講義技術を高めるための「ID研修」と、実技習得のための「実技研修」を実施。「ID研修」では、教える技術の向上をテーマに、年6回の研修を実施した。実技に関する研修は学科毎に開催した。	4
今後の課題とその 解決方法	今後は、傾聴やカウンセリング、コーチングの研修も実施していきたい。	
参考資料	「ID研修資料」	

D, 生徒指導等		評価点
D-1	基本的生活習慣の確立の為の取組が行われているか	4
D-2	生徒の安全管理の為の取組が行われているか	3

D-1	基本的生活習慣の確立の為の取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	毎年度実施している新入生合宿・新年度オリエンテーションの場において、基本的生活習慣の指導や学生毎に年間を通しての目標設定を掲げその実現にむけて取り組んでいる。また、月・水・金曜日のショートホームルームにおいて学生の状況把握と適切な指導をしている。	4
今後の課題とその 解決方法	基本的生活習慣の確立には、学生自身の自己管理能力アップが不可欠である。来年度は、このための授業を展開するとともに、教員の学生に対する日常の指導を大切にしていきたい。さらに、個人面談を適宜実施し、きめ細やかな指導を心がけたい。	
参考資料	新入生合宿の資料、新年度オリエンテーションの資料、出席簿、週間報告書	
D-2	生徒の安全管理の為の取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	防災体制は構築されている。施設の点検も専門業者に委託し安全性を確立している。遠方からの学生が多いことから、民間の学生寮や信頼のある不動産業者を斡旋している。アルバイトについては、許可制をとっており就業先や勤務時間等の確認や指導もしている。	3
今後の課題とその 解決方法	防災については、地震や火事等に備え、常日頃からその意識を高める必要がある。新築した2つの校舎の避難訓練が滞っており、早急に実施したい。	
参考資料	防犯管理点検記録、災害時のリーフレット、学生寮案内パンフレット、学生アルバイト届	

E、学修成果		評価点
E-1	就職率の向上、退学率の低減が図られているか	4
E-2	卒業後のキャリア形成への効果を学校の教育活動の改善に活用しているか	4

E-1	就職率の向上、退学率の低減が図られているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	卒業対象者には、進路ガイダンスにて進路を決めるための心得や企業の見方などを説明し、ミスマッチが起きないように意識させている。 また、求人票の記載事項（条件面）のみでの判断で応募するのではなく、必ず企業訪問を実施してから応募を決めるように指導している。 退学率減少のためには、学生の心理診断を活用した指導を心がけ、担任が面談にて観察と適時な指導を実施している。	4
今後の課題とその 解決方法	意思薄弱者の対応を早期に行い、進路の方向性を確定できない真の要因を明確にし、学生の取り組むべき課題を提示して取り組ませる必要がある。 担任の面談が学生の退学意識が固まった段階で実施されて報告書が上司に回覧されてくる傾向が強いの で、早期の面談実施と保護者への連絡を密にした対応が必要である。	
参考資料	就職実績一覧（当該年度のもの）、担任による学生面談記録用紙	
E-2	卒業後のキャリア形成への効果を学校の教育活動の改善に活用しているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	卒業後1年経過時にアンケート調査を行い、仕事内容や仕事状況を記入してもらい、それに対しての自分自身の不足事項が何かを振り返り、本校に知らせてくるように働きかけている。進路指導部のみで確認する機密アンケートとして実施。回収率は約6割。	4
今後の課題とその 解決方法	教育活動改善のために、教務部としてのアンケート実施もするとよい。	
参考資料	なし。	

F、生徒・学生支援		評価点
F-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	5
F-2	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

F-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	進路指導の年間計画を立て、卒業対象者はその前年度の2月から4月にかけて意識アンケートやガイダンス、卒業生講話や企業人講和を実施。自らのキャリアプランを考える機会を多く与えている。個別面談を全員実施した上で、会社説明会の参加や検討企業への訪問をさせ、学生の大半が夏休みまでに活動を具体化させられている。 企業訪問実施後の礼状や履歴書の書き方指導なども順次行い、希望職種への就職内定率の向上が図られている。 企業に対しては5月には求人票と内定までの進行表を送り、求人票の回収と内容を綿密にやり取りする関係を築いている。	5
今後の課題とその 解決方法	特になし	
参考資料	企業向け内定までの進め方表、求人票、学生個別カルテ	
F-2	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	AO入試にエントリーして早期に入学許可となる生徒に対しては『入学前教育』を行っている。内容は基礎学力と学科ごとの基礎的な音楽や楽器の知識を身につけられるように設定しており、基礎学力では特に漢字を小学生の学習範囲から始められるようにし、個人レベルに応じて取り組みをさせている。加えて音楽や楽器の基礎知識を身につけ、鑑賞能力を高められる下地作りを課題を通して行うことで、職業意識を早期に立てて、キャリア教育につなげるようにしている。	4
今後の課題とその 解決方法	入学予定者の学力レベルや音楽知識の差があるので、入学前のモチベーションUP維持に工夫が必要。学科により効果的に活用している学科とそうでない学科がある。活用度の統一が必要。	
参考資料	入学前教育の各自の提出物	

G、教育環境		評価点
G-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
G-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	5

G-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	一昨年度9月に新館を新築、今年度3月に新校舎(新本部棟)が完成しさらに教育環境が充実した。	4
今後の課題とその 解決方法	インターネット環境の整備が急務と考えている。また、それに見合うソフトウェア、ハードウェアの導入も考えたい。	
参考資料	なし。	
G-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	学外の実習施設として、湯の山研修センターを構え毎年、学生が集団行動の大切さを学ぶとともに、技術習得を行っている。インターンシップ実習においては、ピアノ調律科が名古屋経済大学インターン、管楽器リペア科が名古屋市小中学校インターン、ギタークラフトコースが大阪サウンドメッセでの企業ブースインターンを実施。海外研修は、音楽サービス創造学科がアメリカ研修、弦楽器製作科ギター・クラフトコースが中国研修を実施している。	5
今後の課題とその 解決方法	習得した技術をアウトプットできるインターンを開拓したいところである。湯の山研修センターでの合宿については、施設の維持などに問題もあり、今後は他の施設での実施も考えていきたい。	
参考資料	湯の山合宿研修資料、インターンシップ実習記録報告書、海外研修資料報告書。	

H、生徒・学生募集		評価点
H-1	高等学校等に接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	5
H-2	学生募集活動において資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	5

H-1	高等学校等に接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	入学者数の比重の大きい東海4県、北陸3県および長野県を中心に高等学校訪問を行い、情報提供に努めている。 「中部楽器専門学校NEWS」というメールマガジンにて本校の学習内容や受験情報を高等学校にも定期的に配信。また、学生広報委員が自ら作成した学習レポートをA4サイズで表したリーフの順次提供により、学校の実態がよくわかれると好評価を得ている。	5
今後の課題とその 解決方法	特になし。	
参考資料	中部楽器専門学校NEWS、学生広報委員の学習レポートリーフ	
H-2	学生募集活動において資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	オフィシャルHP、リーフレットにて正確な情報の伝達をしており、オープンキャンパスでも全体向けガイダンスや学科別でのガイダンス内容に必ず情報伝達をしている。地域性や業種別などの細かな情報については、個別相談などにて対応している。	5
今後の課題とその 解決方法	特になし。	
参考資料	オフィシャルHP、リーフレット	

I、財務		評価点
I-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	4
I-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4

I-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	中長期的な財務基盤においては、本法人の純資産額は増加しており安定している。監査体制については、監事による監査が確立されており、理事会・評議員会でも監査報告がなされている。財務情報の公開については、HP上に掲載し、学生、保護者はもとより一般にも公開・発信を行っている。	4
今後の課題とその 解決方法	平成31年（2019年）3月に新本部棟が完成。多額な投資をしており、財政基盤の安定の為に学生募集の増加が不可欠である。	
参考資料	決算書。	
I-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	予算・収支計画においては、予算編成における基本方針に基づいて作成しており、評議員会・理事会での承認を得て決定されている。また、会計については「学校法人会計基準」に従って適正な会計処理を行っている。	4
今後の課題とその 解決方法	予算編成・収支計画において、学生数の増減が大きなポイントとなる。今後も安定した予算・収支計画を作成するためには学生数の増加が不可欠となる。	
参考資料	予算書	

J、法令等の遵守		評価点
J-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
J-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4

J-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	法令や設置基準の遵守については、学校法人として適切に実施・管理されている。関係省庁への報告等においても適切に実施されている。	4
今後の課題とその 解決方法	コンプライアンス（法令遵守）においては、教職員の一人一人が意識を持ち、更なる向上が求められる。	
参考資料	各種規定等。	
J-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	個人情報保護、特定個人情報保護については、学内で「個人情報保護法規程」「特定個人情報に関する取扱い規程」が定められており、学外への個人情報の流失を予防している。学生に対しては、入学時のオリエンテーション、授業におけるショートタイム等で指導をしている。	4
今後の課題とその 解決方法	学生については、入学時、授業等で説明はするが、「携帯電話」「SNS」等を使っての情報の流失を防止するためには、学生へのきめ細かい指導が必要である。	
参考資料	個人情報保護法に関する規程等。	

K、社会貢献・地域貢献		評価点
K-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
K-2	生徒・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4

K-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	毎年秋に実施している学園祭においては、様々な企画に地域の方々にも来校、参加をいただいております。昭和区役所とは協力提携を結び、地域貢献の一端を担っています。また、名古屋市からの依頼により、市内にある児童養護施設のピアノ調律をしています。	4
今後の課題とその 解決方法	新築した校舎を一般の方に利用していただくなど、施設を活用した貢献をしていきたい。	
参考資料	学園祭資料、昭和区民祭り資料 昭和区役所との連携書	
K-2	生徒・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	対外窓口としてボランティア係（教員）を設置し、諸団体からのボランティアの申し込み受付を行っている。老人福祉施設、児童養護施設、障がい者支援施設、地元地域の商店街などを中心とした演奏会、裏方スタッフ（音響・PA）、ピアノ調律に取り組んでいる。また国際交流、社会福祉支援、地域貢献活動の様々な分野で活動をしている。	4
今後の課題とその 解決方法	現在は、演奏やイベントのボランティアが主であるが、もっと地域の生活に密着したボランティア活動を増やしていきたい。	
参考資料	ボランティア活動記録	

L、国際交流		評価点
L-1	留学生の受入・派遣について戦略を持っているか	3
L-2	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	5

L-1	留学生の受入・派遣について戦略を持っているか	評価点
現状認知・評価等 とその根拠	積極的な留学生募集増を目的として活動はしておらず、留学生自身が調べて本校に問合せをしてくる者のみに対応した募集状況である。 日本人の入試と同様の入試を課しているため、日本語能力検定2級の習得が出願時に必要である。	3
今後の課題とその 解決方法	中国を初めとするアジア諸国の楽器販売増に呼応する形で、とりわけ中国の教育機関から連携を希望する声が高まっているが、具体的な申し出はなく、本校としての利点も見いだせられずで実現には至っていない。	
参考資料	特になし。	
L-2	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	評価点
現状認知・評価等 とその根拠	2019年度は創立40周年であったため、記念冊子を作成。内容に40年の学科変遷と理由を列挙し、直近10年間の就職実績を地域と企業名でわかりやすく表記した。さらに業界従事者の卒業生を複数人紹介。これにより、本校の学習成果が明確に示され評価を向上させた。 また、例年開示している進路就職実績一覧においても、オーナー同士での口コミが行われているようで、反響が増え求人増にもつながったと言える。	5
今後の課題とその 解決方法	特になし。	
参考資料	40周年記念冊子、進路就職実績一覧	